

SHOW HEY シネマルーム

★★★★

チキンとプラム ～あるバイオリン弾き、最後の夢～

2011年・フランス、ドイツ、ベルギー合作映画
配給/ギャガ・92分

2012 (平成 24) 年 9 月 25 日鑑賞

GAGA 試写室

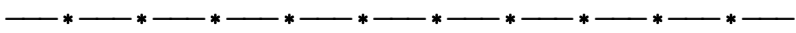
Data

監督・脚本: マルジャン・サトラピ、
ヴァンサン・パロノー
原作: マルジャン・サトラピ『鶏の
プラム煮』(小学館集英社ブ
ロダクション刊)
出演: マチュー・アマルリック/マ
リア・デ・メディオス/イザ
ベラ・ロッセリニ/ゴルシ
フテ・ファラハニ/キアラ・
マストロヤンニ/ジャメ
ル・ドゥブーズ/エリック・
カラヴァカ

👁️👁️ みどころ

政治的・軍事的に緊張感が高まるイランは、意外にも映画大国。ところが、映画界でもイスラム教の預言者ムハンマドを侮辱する映像が、今や国際問題に!

しかし本作は、面白いキャラ、美しい映像、楽しい挿し絵で大人の寓話をタツプリと! 8日間の死への旅が終わった後、バイオリン弾きが見た最後の夢のはかなさとは? 真の芸術家の純真さに感動するはずだ。



■緊張高まるイランは、意外にも映画大国! ■

去る9月10日に発表された野田総理による尖閣諸島国有化「宣言」以降、日中関係はかつてないほど悪化しているが、中東方面ではイランがホルムズ海峡を封鎖する行動に出るか否かが大きな焦点になっている。さらに、イランのホセイニ文化・イスラム指導相は9月24日、米国で制作されたイスラム教の預言者ムハンマドを侮辱する映像に抗議し、来年の第85回アカデミー賞へのイラン映画出品を見送り、ボイコットする意向を示したから、第85回アカデミー賞の外国語映画賞争いは波乱含みだ。

北朝鮮は「近くて遠い国」だが、日本人にとってイランは「遠くて遠い国」。しかし、意外にもイランが「映画大国」であることは、イラン映画『彼女が消えた浜辺』(09年)のすばらしさ(『シネマルーム25』83頁参照)や、第84回アカデミー賞でイラン映画『別離』(11年)が外国語映画賞を受賞したことで明らかだ(『シネマルーム28』68頁参照)。また、イラン出身の女性アーティストであるマルジャン・サトラピが描いた自叙伝的コミック『ペルセポリス』を自ら映画化した『ペルセポリス』(07年)は、アニメ映画としては30年ぶりにカンヌ国際映画祭審査員賞に輝いている。

■政治問題を離れ、大人の寓話を！■

『ペルセポリス』はマルジャン・サトラビ自身が小さい時から持っていた「なぜ〇〇なの？」「どうして△△ではダメなの？」という感受性と好奇心が原動力となった映画で、1878年当時のイランの政治情勢が次々と明らかになるが、イランの政治情勢をほとんど知らない日本人の私としては、正直言ってもう少し論点整理してほしかった（『シネマルーム18』90頁参照）。そんなマルジャン・サトラビが第2作目ではイランの政治問題を一切離れ、自らの原作コミック『鶏のプラム煮』の実写化に挑戦！

第1作と同じように本作もタイトルだけでは何の映画かサッパリわからないが、『チキンとプラム』という（本）タイトルではなく、『あるバイオリン弾き、最後の夢』というサブタイトルに注目すれば、本作の筋は理解できるはず。映画は「天才音楽家ナセル・アリは、死ぬことにした」というナレーションから始まるが、そりゃ一体なぜ？そして、このナレーションを語っている人物とは？緊張高まるイランの政治問題を離れ、大人の寓話をタップリと・・・。

■面白いキャラ！美しい映像！楽しい挿し絵！■

本作の主人公ナセル・アリ（マチュー・アマルリック）は当代最高のバイオリニストだが、スクリーン上に見るナセル・アリのキャラは気難しい天才風ではなく、どことなく愛嬌のある面白いキャラ。もっとも天才バイオリニストではあっても、生活能力はゼロに近いようだから、ナセル・アリの母親・パルヴィーン（イザベラ・ロッセリーニ）の強引さによって結婚させられることになった、教師でオールドミスそして進歩的な思想の持ち主・ファランギース（マリア・デ・メディオス）との結婚生活はあまりうまくいっていないようだ。どこの夫婦でもたまに夫婦ゲンカがあるのは当然だが、ナセル・アリとファランギース夫婦の場合は、ファランギースがカッととなってナセル・アリが命よりも大切にしているバイオリンを叩きつけて潰してしまったから最悪。そのことがナセル・アリが「死ぬことを決意した」最大の理由だから、和解を目指して4日目にナセル・アリの大好きなチキンのプラム煮をつくって差し出してもナセル・アリが見向きもしなかったのは当然だ。マルジャン・サトラビ監督のカメラは、死ぬことを決意し、6日目に「死の天使」アズラエル（エドゥアール・ベール）が現れ、8日目に遂にあの世に旅立っていくまでのナセル・アリの行動やナセル・アリの回想を美しい映像や楽しい挿し絵で追っていく。

イランが厳しい国際情勢にある時、こんな寓話を楽しんでいいのか！という声もあるかもしれないが、所詮映画はエンタメ！面白いキャラ、美しい映像、楽しい挿し絵の中で展開されるナセル・アリの8日間の旅立ちへの日々を綴った、楽しくもいじらしい寓話をタップリと楽しみたい。

■哲学的な名セリフがあちこちに・・・■

若い頃のナセル・アリのバイオリンの腕前について、お師匠さんは「テクニックは完璧

だが、君の音楽はクソだ」と酷評したうえ、「楽器は光をあふれさせるためにある」「人生は吐息 人生はため息 このため息をつかむのだよ」と何とも奥深い哲学的な名セリフを吐いている。若い頃のナセル・アリがそのセリフの意味を全然理解できなかったのは仕方ない。しかし、ナセル・アリが夢中になった女性・イラーヌ（ゴルシフテ・ファラハニ）との恋がイラーヌの父親の「生活能力のないバイオリニストに娘はやれない」との判断によっておじゃんになった直後、ナセル・アリのバイオリンからは伝説の音色が出るようになったから不思議だ。

要するに、このレベルになるとバイオリンは手で弾くものではなく、心で弾くものということだ。そのことは陳凱歌（チェン・カイコー）監督の名作『北京ヴァイオリン』（02年）を観ても明らかだ（『シネマルーム5』299頁参照）。



© Copyright 2011 Celluloid Dreams Productions - The Manipulators - uFilm Studio 37 - Le Pacte - Arte France Cinéma - ZDF/Arte - Lorette Productions - Film(s)

■□■「死の天使」アズラエルのキャラにも注目！■□■

また本作では、あれほど死を待ち望んでいたナセル・アリが死の天使・アズラエルが登場するとこれに怯えるサマが描かれるから、それに注目！天才音楽家・モーツァルトをその時代のライバル音楽家であったサリエリの対抗的な視点で描いた名作『アマデウス』（84年）では、最後の傑作『レクイエム』を作曲しているモーツァルトを「死に神」が迎えにくる様子が描かれていたが、この「死に神」は情け容赦のないキャラだった。ところが、本作に見る、黒い顔に浮かびあがる白い歯が目立つ死の天使・アズラエルは愛嬌タップリで、6日目に登場したのは「私を呼んでいたから、会いに寄った」だけらしい。

結局ナセル・アリは死ぬことを決意してから8日目に死ぬことになるのだが、そこで挿し絵入りで語られる寓話も哲学的で奥深いから、それにも注目！本作は「1958年の秋テヘランの街角で、この物語の主人公ナセル・アリに出会った」というナレーションから始まるが、ここまで書けばこのナレーションを語っているのが誰かはわかるはず。声優が読むだけのナレーションでないからこそ生まれてくる哲学的な深みを、十分味わいたい。

■□■この美人女優に注目！■□■

ナセル・アリが死の床についた4日目に思い出したのが、若い頃に一目で恋に落ちたイ

ラーヌとの恋。それはお師匠さんからバイオリンの技術について手厳しい指摘を受け思い悩んでいた時期だったが、ナセル・アリがイラーヌとの恋に落ちたのはイラーヌが軽やかに歩く足を見た時から。その足の美しさに惹かれた彼は矢も盾もたまらず彼女の後ろをつけていったが、父親の経営する商店の中に入った彼女の顔を見て、ナセル・アリはたちまち一目惚れ。その後の懸命な努力により、いったんはイラーヌの心を獲得することができたのだが、父親の反対の前にもろくもこの恋は頓挫することに。

こんな恋の展開を見ていると、思わずマルジャン・サトラビ監督は「足フェチ」かと思ってしまったが、さて？イラーヌを演ずるゴルシフテ・ファラハニは『彼女が消えた浜辺』に主演した女優で、私はその時からその美しさに注目していた。したがって、本作では一目見た瞬間その美しさに目を奪われたのは、私もナセル・アリと同じだ。彼女はリドリー・スコット監督の『ワールド・オブ・ライズ』（08年）でレオナルド・ディカプリオの恋人役で出演するなど活躍の場を広げたが、その出演がきっかけでイラン政府当局から本国からの出国禁止処分を受けたらしい。今では処分が解かれ現在はパリに在住しているそうだから、そんな美人女優の今後の更なる活躍に期待！

■□■バイオリン弾きの最後の夢とは？■□■

本作ではナセル・アリが死の床についてから8日間の物語が日付を追って描かれた後、サブタイトルとなっている『あるバイオリン弾き、最後の夢』のその後(?)が描かれるから、それに注目！ナセル・アリがイラーヌとの恋に破れた後、イラーヌはどこかの将校と結婚するシーンが登場するから、てっきり二人の恋はこれにて永久にジ・エンドと思っていると、何の何の・・・。「バイオリン弾きの最後の夢」は全く思わぬ展開を見せるので、そのハイライトはあなた自身の目でじっくりと。当代最高のバイオリニストのイラーヌに対する恋を見ていると、真の芸術家の純真さに驚くとともに、死ぬまでその恋を忘れない純真さにもビックリ！

2012（平成24）年9月27日記

イスラム教とムハンマド

1) 日本ではムハンマドではわからないが、マホメットならイスラム教の創始者だとわかる。仏教の開祖たる釈迦は紀元前5世紀に生まれ、ムハンマドは西暦570年頃メッカで生まれたから、イエス・キリストはちょうどその真ん中だ。
2) イスラム教ではムハンマドのような預言者でも神格化は厳しく否定されるが、そうかといってそれを侮辱するような映像はもつてのほか。日本でもかつて

は天皇陛下の顔を映像にすることははばかられたが、それはキリストについても同じだった。したがって今年9月、米国が作成したムハンマドを侮辱する映像にイランの文化イスラム指導相が抗議し、来年の第85回アカデミー賞へのイラン映画出品を見送り、ボイコットしたのは当然かもしれないが、さてこの攻防の行方は？

2012（平成24）年11月1日記